



国土交通省

清水港湾事務所の主要プロジェクト

清水港 袖師地区 岸壁の改良(老朽化対策)

(2023~)



袖師第1埠頭は、1971年(昭和46年)に建設工事し、1982年(昭和57年)には、袖師コンテナターミナルが供用を開始しました。(16頁参照)

2016年(平成28年)には、大分-清水間の国内RORO船(貨物専用フェリー)の新規航路が開設され、現在では、大阪-清水-釧路航路、名古屋-清水-苫小牧航路も開設され、平日は毎日運航しています。

袖師8号岸壁は、RORO船の接岸岸壁として利用されており、合成樹脂や紙製品のほか、農産物の移出入を取り扱っています。

しかしながら、岸壁の供用開始から40年以上が経過しており、岸壁の沈下やエプロン舗装のひび割れなど、岸壁の老朽化が著しく、荷役に支障を及ぼしていることから、2023年(令和5年)から、岸壁改良工事に着手します。

- 主要施設 / 袖師8号岸壁(水深12m、延長240m)
- 主な改良内容 / 袖師8号岸壁 エプロンの嵩上げ、岸壁前面の埋め戻し
- 事業期間 / 2023年(令和5年)~



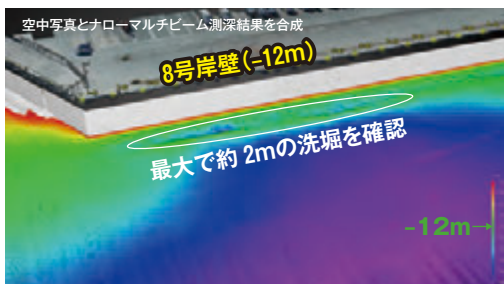
RORO航路ネットワーク(令和5年2月現在)



九州産の農産物の例(キャベツ, 柑橘類, サツマイモ)

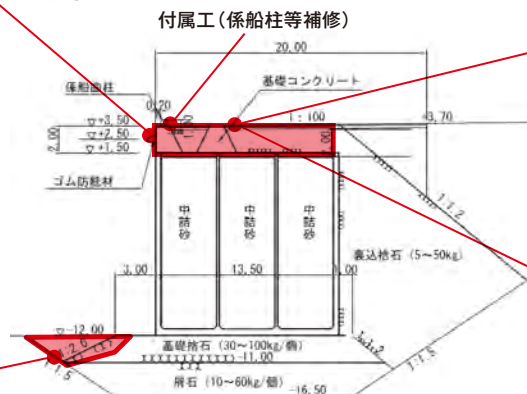


上部工の鉄筋露出→断面補修



最大で約2mの洗堀を確認

岸壁前面の洗堀→洗堀の埋戻し



袖師8号岸壁の老朽化対策の内容



エプロン舗装のひび割れや沈下(最大50cm程度)→エプロン打替・嵩上げ等